

## 分科会の概要（午前の部：6月24日（金）9:30～11:30）

### 第1分科会

#### 「専門図書館員の質保証を考える－国内外の実状から得られた示唆をもとに－」

専門図書館員は、これまで図書館関係団体が実施する各種の研修等を受講することによって、職務に役立つ知識や技術を習得してきました。そうした知識や技術を客観的に評価し得る制度を構築することによって、専門図書館員のもつ知識や技術の質を保証することが可能となります。

この分科会では、「専門図書館員の質保証を考える」と題して、お二人の講師に話題を提供していただきます。小田氏には、各館種の図書館を含めた国内外の図書館情報学教育の質保証の動向をご紹介いただき、日本の専門図書館員の質保証のあり方や今後の取り組みにあたって示唆をいただきます。酒井氏には、米国の医学図書館員の養成、質保証の実情と取り組み、認定資格制度などをご紹介いただき、日本における医学図書館員の質保証の実情も参照しながら、専門図書館員の質保証のあり方について示唆をいただきます。

この分科会に参加することで、国内外の実情から示唆を得ることができ、専門図書館員のもつ知識や技術をどのように担保していくべきかを考える機会が得られることでしょう。

① 小田 光宏 氏（青山学院大学教育人間科学部教授）

② 酒井 由紀子 氏（慶應義塾大学文学部准教授）

「図書館員の知識と技術を保証するには」

「米国の医学図書館員の質保証の状況」

司会：青柳英治（明治大学教授）

運営：吉崎保（千代田区立千代田図書館）

### 第2分科会

#### 「個人情報保護法と専門図書館～個人情報保護法再び」

2003年5月成立と同時に一部施行され、2005年4月に全面施行された個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）。2015年9月に法改正され、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（行政機関個人情報保護法）も改正予定となっています。改正法では、匿名加工情報、要配慮個人情報、トレーサビリティなど新たな概念が導入されています。高度情報通信社会の進展により個人情報の利用が著しく拡大していく中、図書館での個人情報の適正な取り扱い方とはどのようなものかを考えます。

専門図書館が個人情報に向き合う上で、「今後どのようなことに注意を払うべきか」「今後どのような展開になっていくのか」について、ご参加の皆様と一緒に考える場となれば幸いです。

① 湯浅 壘道 氏（情報セキュリティ大学院大学教授）

② 菊池 健司 氏（日本能率協会総合研究所）

「個人情報保護法改正と専門図書館」

「専門図書館における個人情報保護事例～今後の注目ポイントとは」

司会：結城智里（機械振興協会経済研究所）

運営：渡邊浩江（東京商工会議所）

### 第3分科会

#### 「ユーザーの視点でみる専門図書館」

専門図書館の利用者（ユーザー）からは、図書館に対して常に質の高い情報の提供を求められます。

専門図書館を見るとき、ひとつの切り口としてユーザーの視点をはずすことはできません。企業での業務上の情報収集活動、その活動における図書館の利用状況、今後求める役割について、インターネット時代の企業内専門図書館のサービスのあり方を探ります。

また、専門図書館が提供する書誌情報データベースについて、データの品質及びアクセス数の向上などユーザーを意識した取り組み事例を紹介します。

① 小泉 真理 氏（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）

② 稲垣 理美 氏（日本原子力研究開発機構）

「ユーザーから見た企業内専門図書館」

「ユーザーを意識した書誌データベース」

司会：柳一美（(株)日立製作所）

運営：栗田淳子（国際交流基金）

第4分科会

「専門図書館を取り巻く著作権の気になること」

2015年はTPPの交渉が進展し、大筋合意に至り、多国間での実施に道が広がりました。わが国でも3月の閣議決定により関連法案の国会上程の報道がありました。この分科会では、TPPが発効した場合、保護期間の延長、「非親告罪」などの変化が多様な専門図書館の活動にどのような影響があるのか、それに関連し著作権法を取り巻く状況がどのように影響を受けるかなどの動向を解説します。また、事例報告として現実的課題となっている「デジタルアーカイブズコンテンツのオープン化の課題解決のために」と専門図書館では取組みが遅れている「国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス」について説明していただきます。専門図書館の著作権に関する今後の展望が開けるとともに、課題の疑問を解く手がかりと今後の業務推進に大いに役立つ分科会です。

① 吉田 大輔 氏  
(早稲田大学教授)

「TPPを中心とする著作権の最近の動向」

② 岡本 明 氏

(NPO法人知的資源イニシアティブ)  
「デジタルアーカイブズコンテンツのオープン化の課題解決のために」

③ 村上 浩介 氏

(国立国会図書館)  
「国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス」

司会：望月聖子（三井化学（株）） 運営：著作権委員会委員

第5分科会

「学術情報流通の現状と将来」

学術情報流通は、300年以上続いてきた学術雑誌という印刷物を通して研究成果を流通させるという方式が大きな変革の時を迎えている。20世紀末からの電子ジャーナルの普及、利用者が無料で自由に成果にアクセスできるようにするオープンアクセス運動の展開、そして研究プロセスで生み出される研究データの共有へと、従来の学術情報流通の枠組みではとらえきれない動きが急激に進みつつある。従来雑誌を購入し、保管することで学術情報流通に多大なる役割を果たしてきた大学図書館は、この新しい展開のなかでのその役割の再検討が求められている。デジタル化、オープンアクセス、オープンデータが持つ意味を考えてみたい。

① 倉田 敬子 氏

(慶應義塾大学文学部教授)  
「オープンアクセスの進展と新たな展開」

② 横井 慶子 氏

(東京大学附属図書館)  
「オープンアクセスジャーナル」

③ 松林 麻実子 氏

(筑波大学図書館情報メディア系)  
「オープンアクセスと大学図書館」

司会：村井友子（日本貿易振興機構アジア経済研究所） 運営：古根村政義（神奈川県立川崎図書館）

第6分科会

「まちづくりと専門図書館」

専門図書館では、その設立趣旨に沿うように様々な活動を展開しています。図書資料の閲覧や貸出などの他に、セミナーや資料展示会を開催するなどして積極的に啓蒙や地域貢献をはかっている館があります。こうした活動は、図書館の蔵書を有効に活用する方策であり、また図書館が地域や利用者にとり寄り添い、ともに歩む存在であることを示すものです。

本分科会では、こうした活動を展開する3つの館から、地域資料の収集方法や提供の仕方、セミナー運営と図書館の連携などについて報告します。図書館が多様な活動を展開することや、図書館の活性化策、PRを考えるきっかけにしたいと思います。

① 山崎 三枝 氏

(福岡アジア都市研究所都市政策資料室)  
「福岡の発展をささえる都市情報～URC都市政策資料室38年間の歩みとこれから～」

② 永原 誠 氏

(名古屋都市センター)  
「まちづくりライブラリーが地域に果たす役割～まちの歴史を引き継ぎ未来へつなぐ」

③ 中嶋 茂雄 氏 梶原 静香 氏

(特別区協議会特別区自治情報・交流センター)  
「図書館から始まる情報の循環～特別区協議会のとりくみ」

司会：田村靖広（(公財)後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館） 運営：高田繁則（キハラ（株））

# 全国研参加費用一覽表

単位:円

	1人目	2人目	3人目	4人目
正会員(1-2口)	18,000	10,000	10,000	10,000
正会員(3口)	18,000	0	10,000	10,000
正会員(4-5口)	18,000	0	0	10,000
賛助(1口)	18,000	10,000	10,000	10,000
賛助(2口)	18,000	0	10,000	10,000
個人会員	10,000			
非会員	23,000	23,000	23,000	23,000
協賛(賛助・正)	0	18,000	10,000	10,000
協賛(非会員)	0	23,000	23,000	23,000